



自然観察を用いた介護職員の感性を育てるための 教育内容の開発に資する予備調査 報告書



- 本研究は、認知症介護に携わる**介護職員に対する教育方法**としての「自然観察会」の可能性を明らかにすることを目的に、プロによる自然観察会を認知症介護指導者等に体験してもらい、**自然観察会の意義や効果的実施方法等について検討**しました。
- アンケートでは、すべての参加者から、**自然観察が認知症ケアの感性を育てるのに大きく寄与する**、または寄与するという回答が得られました。
- その他「**事実から類推する力を育むことができる**」という意見や「**ストレスが軽減できる**」といった効果を指摘する意見も得られました。

自然観察会の対象と方法

【日時】 第1回2019/6/16、第2回8/31、第3回12/8の10:00~16:00

【対象者】 認知症介護指導者養成研修受講者または認知症介護にかかわる専門職 20名/1回

【プログラム】 自然観察会を60~90分間実施し、昼食をはさんで講義とワークショップをしました。

時間	内容
10:00~12:00	趣旨説明、自己紹介、自然観察会
12:00~13:00	昼食
13:00~13:30	自然観察会講師による講義
13:30~16:00	ワークショップ・まとめ

★自然観察会は公益財団法人日本自然保護協会の協力を得て実施しました。

【講師】 勝山智男氏（独立行政法人国立沼津工業高等専門学校 名誉教授）

一寸木肇氏（大井町教育委員会おおい自然園 園長）

【事務局】 高川晋一氏、小林今日子氏

【データ収集・分析】 研究担当者による写真撮影、フィールドノートの作成、及びワークショップでのディスカッションの内容を記録し、自然観察の意義について、質的に分析しました。

自然観察会の結果

ねこじゃらしのキャンディづくり



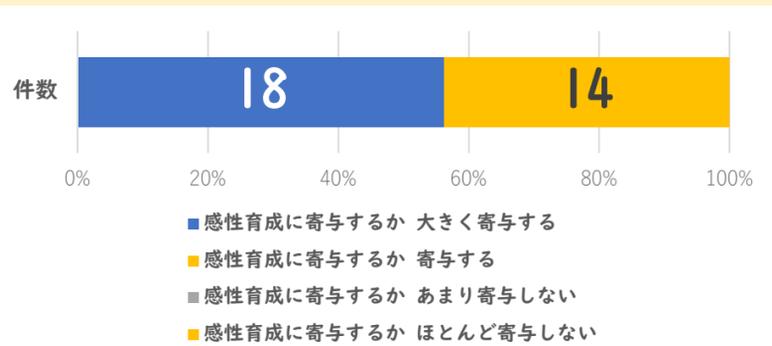
グループで苔の色や触感、種類を調査!



アベリアのにおいや茎（空洞になっている）を観察



参加者に行ったアンケートではすべての回答者が自然観察が感性教育に寄与すると回答しました。(n=32)



図自然観察はスタッフの感性を育てることに寄与するか

～参加者の感想～

- ひとつのものを見ても多様な見方がある。認知症の人を見る目も多様。ダメ、同一ケアではなく、多様を否定せず共有することの大切さにつながっていた。
- 今日は自分が楽しめた。関心を向けるということが出てきた。対人援助職として関心を向けられるか。その辺の花にも関心を向けられるか。関心を向けることが重要ということを実感できた。
- 一つ一つの花とか葉っぱを見て感動する、なんだろうねと疑問を持つことが大事と教わった。私もそうやっていたと思い出した。
- 自分が持っている知識から答えを出そうとしてもがいている。直感で感じるものが大事。

👉 今回の結果をもとに、今後、実証的な研究を進めます